

大きな絵を描く

5月3日の北條五代祭りは昨年を上回る人出でありました。天守閣のリニューアル効果、NHK大河ドラマの「真田丸」の人気、特に、その中で北條四代氏政公を演じた俳優の高嶋政伸さんの登場でさらに盛り上がったようです。このビッグイベントを無事成功裏に開催された観光協会ははじめ、ご尽力くださった方々に心より敬意を表したく存じます。小田原の観光のポテンシャルを改めて感じた方も多いのではないでしょうか？

当所としても、一昨年の箱根・大涌谷の事象の教訓から取りまとめた「小田原・箱根の観光ビジョン(2016年5月)」と、その中の提言のひとつである小田原自体の観光の核づくり策として発表した「平成の城下町・宿場町構想(2016年11月)」を絵に描いた餅に終わらせることがないように、その実現に向けて動いております。

「平成の城下町・宿場町構想」については、4月末に小田原市、観光団体、自治会、商店街などからなるオール小田原での研究会が立ち上がりました。すぐ出来そうなこと、時間がかかりそうなこといろいろですが、テーマによって分科会に分かれ、総勢100名近い人たちが動き始めます。テーマは5つ。1.小田原駅の顔とお城への動線 2.三の丸地区 3.かまぼこ通り 4.まちの回遊性(邸園文化、総構えなど) 5.海のなりわい。

それらを進める中で、明確に整理していく必要がある課題があります。例えば、小田原駅前のお城通りの再開発のあり方について。交通の重要な結節点である駅前の交通をどう取り廻すのか？ どう観光客をまちへ出し回遊してもらい、さらにまちの観光商業へつないでいくのか？ 人の流れを駅とこれからできる予定のお城通りの施設だけで終始させてはなりません。

あるいは、三の丸に大手門を復元して、その景観を最大限に活かしながら周辺に観光施設を整備するためには、裁判所と検察庁の移設をお願いしなくてはなりません。

これらの構想を実現していくためには、官民での真剣な議論が必要です。そして、行政の英断が求められる場面が増えていくことでしょう。

今までのような単品料理の羅列ではなく、全体の大きな絵を描き、その構成要素としての各施設を整備していくことが必須だからです。

小田原の観光のポテンシャルを最大に顕在化させる(=来訪者を増やし、楽しみながらお金を使ってもらおう)ことが、地域にお金を呼び込み、地域で回るお金を増やすことにつながります。そのお金は、小田原で暮らす私たちが地域の課題解決に使える原資になるからです。今こそ、大きなビジョンを描く構想力と思い切った決断と行動をする実行力が求められていると感じます。

会頭 鈴木悌介